49. 愛 Love

自分の愛を貯め込んだり、計算したりしないように覚えておきましょう。けち臭くなってはいけません。あなたはなにもかも逃してしまうでしょう。その代わりに、あなたの愛を咲かせて、それを分かち合いましょう。それ

ある偉大な王に三人の息子がいて、彼はひとりを自分の後継者に選びたかった。ところがそれは非常にむずかしかった。というのも、三人ともみな非常に賢くて、とても勇敢だったからだ。しかも彼らは三つ子だった――

王は家に帰って、三人の息子たちみんなを呼び寄せた。そこで彼は、花の種の入った袋をひとつずつ彼らに与え、自分は宗教的な巡礼に行くつもりだと告げた。「数年はかかるだろう――― 一年、二年、三年、もっとか

最初の息子は考えた。「この種をどうしたらよいだろう？」。彼はそれを鉄の金庫に入れて鍵をかけて入れた――父親が帰っ
てきたら、彼はそれをあるがままで返さなければならなかったからだ。

二番目の息子は考えた。「兄弟がやったように閉じ込めてしまったら、死んでしまうだろう。死んだ種はまるで種ではない」
そこで彼は市場に行ってその種を売り、金を取っておいた。そして彼は考えた。「父が帰ってきたら、私は市場に行こう。
新しい種を買って、それを父に返そう。最初のよりは良い」
だが、三番目の息子は庭園に入ってゆき、あたり一面に種を蒔いた。
三年たって、父親が戻ってくると、最初の息子は金庫を開けた。種はすべて死んでいた、臭いを放っていた。そこで父親は行った。「どういうことだ！ 私がお前に与えた種がこれなのか？ それらは花となって咲いて、すば

二番目の息子は市場に駆けつけた。種を買い求めて家に帰り、それを父親に贈った。父親は言った。「だがこれは同じものではない。お前の考えは最初のよりは良かった。だが、お前はまだ、私がお前にそうあって欲しいと

彼は三番目の息子のところに行った――大きな期待と、恐れをも抱いて――「彼はなにをやったのだろう？」と。三番目の息子が彼を庭園に連れてゆくと、何百万もの草木が花を咲かせていた。まわり中に何百万も

父親は言った。「お前が私の後継者だ。それこそ人が種に対してなすべきことだ」

貯め込む人は生を理解しない。そして計算だかいマインドもそれを逃す。創造的なマインドしかそれを理解できない。それが花の美しさだ――彼らを貯めることはできない。彼らは神を代表する。神を貯めることはでき
愛を貯めることはできない。

何代にもわたって、あらゆる国で、あらゆる種類の社会で、花が愛のシンボルでありつづけたのは偶然ではない。愛は花のようだ――それがあなたのなかで咲き始めると、あなたはそれを分かち合わなければならない。

ZEN : THE PATH OF PARADOX, Vol.2, pp.43-45

Revision #3
Created 5 October 2024 23:10:16 by ゆう
Updated 6 October 2024 00:46:12 by ゆう